

# 認定NPO法人さいたまユースサポートネットは 「寄付金控除」の対象法人です

全国のNPO法人、約5万団体のうち、  
認定NPOは1,260団体、2.6%です（2025年1月31日現在）。  
埼玉県では31団体（さいたま市には9団体）がありますが、  
子どもの貧困を主たる課題として取り組む団体は当団体だけです（2024年度）。

## 税制優遇措置について

さいたまユースへのご寄付には、所得税・相続税（遺贈）・法人税の税制上の優遇措置があります。

〈個人〉ふるさと納税と同様に寄付金控除の対象となり、確定申告で所得税・住民税控除が可能です。

〈法人〉一般枠と特別枠の合計金額で損金算入ができます。

〈遺贈・相続〉寄付か相続税を払うかを選択することができます。

個人・法人の  
ご寄付はこちら



遺産・相続による  
ご寄付はこちら



<https://saitamayouthnet.org>



Instagram



X (IB Twitter)



Facebook



YouTube



認定NPO法人  
さいたまユースサポートネット

〒337-0052 さいたま市見沼区堀崎町12-39

TEL 048 - 829 - 7561 (代表)

saitama.yn@gmail.com

# 一人の子どももや 若者も 取り残さない 社会を



認定NPO法人  
さいたまユースサポートネット

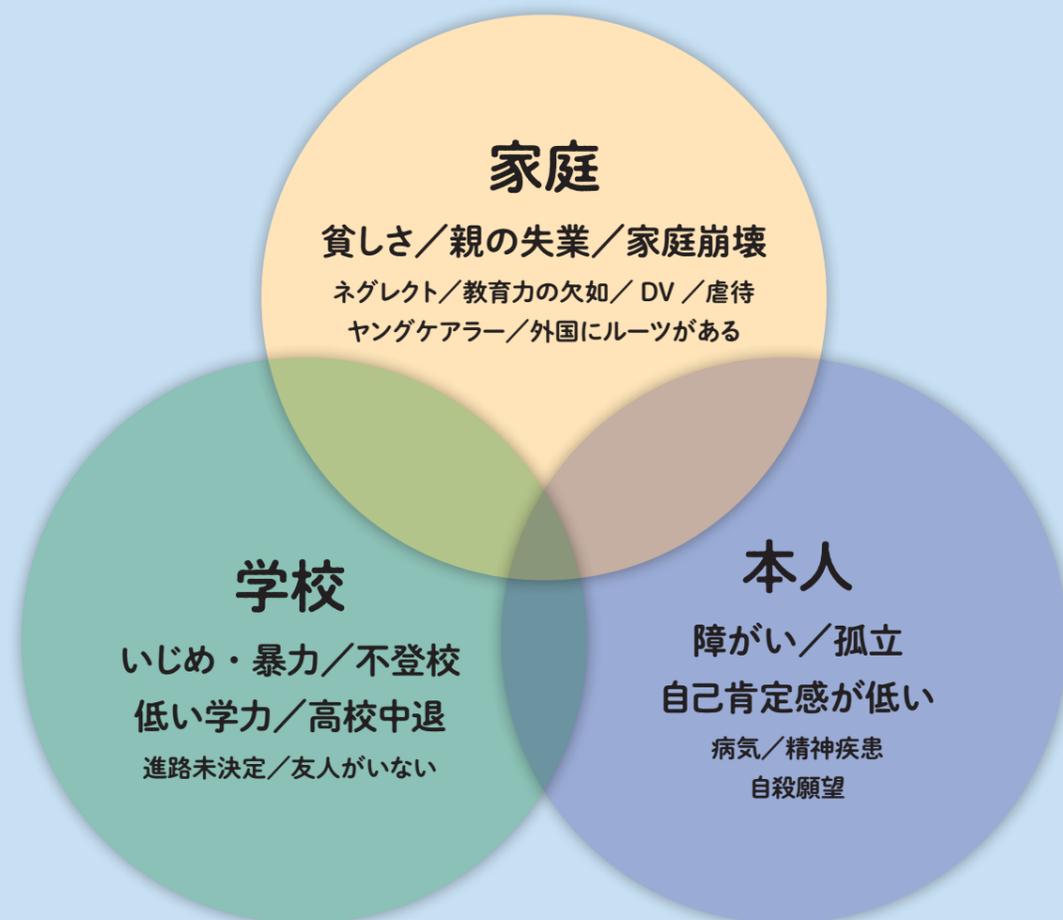
## 一人の子どもや若者も取り残さない社会を

多くの子ども・若者が抱える貧困、孤立などの「生きづらさ」は、社会で向き合うべき課題です。

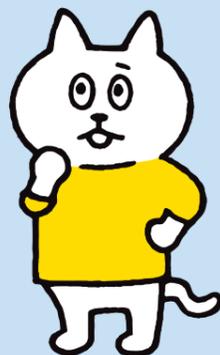
困難の背景には、複合的で重層的なリスクがあります。

家庭、学校、地域の協働で

子ども・若者が孤立や貧困に負けない力を育てます。



見た目にはわからない  
 いろいろな「生きづらさ」を  
 抱えている子どもたちが  
 いるんだね



## 地域で分かち合い、支え合いを持続可能にする 「ローカル・コモンズ」を創出し、全国のモデルに

さいたまユースサポートネットは、2024年春、「認定NPO法人」になりました。

貧困や孤立して苦しむ子どもや若者たちの幸せと

将来の日本社会の持続的な発展のために、引き続き努力していきます。

2011年、学生や市民のボランティアからはじまった学びなおしの場「たまり場」は、50人ほどの小さなコミュニティでした。活動は年々大きく広がり、認定NPO法人となった今、関わっている子ども・若者は毎年1,500人を超えています。

私たちは、活動を通してさまざまな若者と出会ってきました。虐待や家族の崩壊により児童養護施設で育った若者、発達障害などがかえ長年のひきこもりを経験した若者、中卒後未進学、生活保護、外国にルーツがあるなど生活困窮層の若者、中には早くに親をなくし、一人ぼっちのホームレスだった若者もいました。ヤングケアラーの若者も少なくありませんでした。ほぼ共通するのは、不登校や高校中退の経験です。中には小学校のわずかな期間しか学校に通っておらず、学力は小学校の低学年程度という若者もいました。

近年、児童生徒の不登校が急増しています。さらに、学校生活から離れた子どもたち、日本語の習得ができない外国にルーツがある子ども・若者たちが社会で孤立しています。彼らは、「社会から見捨てられている」とも感じているのです。

事実、格差は社会を分断しています。社会の片隅で暮らしている子ども・若者と家族に地域の人々が寄り添うだけでなく、子どもからお年寄りまでが互いに支え合う地域づくりが必要です。「ローカル・コモンズ」は、このような子ども・若者を支える仕組みであり、住民と住民組織、行政組織の協働によって包括的で持続的な地域づくりを目指す活動でもあります。そしてまた、この活動がモデルとなり日本全国に広がることを目指しています。

持続可能な地域社会は、住民参加のプラットフォームづくりから。

市民と行政、学校、企業も参加するプラットフォームづくりを共に目指しましょう。



### 代表 青砥 恭

元埼玉県立高校教諭。その後、関東学院大学、埼玉大学、明治大学で教える。2016年から「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」代表理事。著書(編書・共書)に『ドキュメント高校中退』(ちくま新書)、『若者の貧困・居場所・セカンドチャンス』『貧困・孤立からコモンズへ 子どもの未来を考える』(共に太郎次郎社エディタス)など多数。

# さいたまユースサポートネットのあゆみ

目の前の子ども・若者のSOSに寄り添うための  
小さな居場所からはじまった

私たちさいたまユースサポートネットは、2011年7月から、さいたま市を中心に“地域”に根ざした活動を続けてきました。虐待、ヤングケアラー、発達・知的等の障がい、いじめ、不登校、高校中退……。生きづらさを抱えた子どもや若者が、孤立と貧困の中で暮らしています。そのような子どもや若者の現実に寄り添いながら、居場所、学習、体験、就労を通して社会とつなぐなど、必要に応じて活動の範囲は広がっていきました。

## さいたまユースが取り組むSDGs

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。SDGsは、世界を持続可能にするために、国連の全加盟国が合意した17の目標です。さいたまユースでは9つの目標に取り組んでいます。



### 学習支援

経済的・環境的に学習が十分にできない困窮層や、外国ルーツの子ども・若者の学習をサポートします。

### 居場所支援

居場所や仲間づくりのための場をつくり、子ども・若者とその家族を支えます。

### 就労支援

不登校や引きこもりなどの若者の自立への一歩に寄り添います。仲間づくりやさまざまな人との関わりからサポートします。

2012年度～  
生活困窮層の子どもへの学習支援

生活保護受給世帯や児童扶養手当全額受給世帯、自立相談支援機関を利用している世帯の子どもを対象としています。

・さいたま市学習支援教室(中学生)

2011年7月～  
「たまり場」活動スタート!

「学びたい」「他者とつながりたい」という多くの若者たちが集まりました。

2018年度  
地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン(文部科学省)

高校中退者への進路選択、学びなおし支援の場、まなび場「いっぽ」を実施。前向きな気持ちで臨めるよう、利用者と一緒に軽食を準備し、食事もしました。

2013年度～  
居場所のない若者たちの居場所づくり

多様な生きづらさを抱え、社会から孤立しがちな若者たちが、安心して過ごせる居場所です。社会的な活動体験を重ね、面談などもおこなっています。

・さいたま市若者自立支援ルーム(桜木・南浦和)

2024年度～  
埼玉県バーチャルユースセンター

メタバース空間「バーチャル埼玉」内の相談エリア。アバターでの交流、相談などができます。

2013年度～2020年度  
若者たちの就労支援

地域若者サポートステーション(厚生労働省・埼玉労働局)

2017年度～2020年度  
地域の多様な人材との連携による高校生自立支援事業(埼玉県)

2021年6月～  
若者就労支援

「働きたくても働けない」若者をサポート。「働く」準備と一緒に進めます。

・「はたチカ」応援プログラム

2018年度～  
小学生のサッカー教室スポーツ遊び

小学生に無料でサッカーやスポーツ遊びの機会、食事やおやつを提供してきました。

### 地域づくり

全ての活動のベースを整えるには地域づくりが欠かせません。堀崎に拠点を置いて、モデルとなる地域づくりを始めています。

2021年度～  
堀崎プロジェクト始動!

2021年度～  
子どもの第三の居場所

・あそぼっくすみぬま  
・あそぼっくすほりさき  
・ほりさきたまり場

詳しくは12ページへ!

### 6畳一間のアパートから始まった

「たまり場」は、孤立の中で暮らす貧困層の若者たちの学びなおしを目指し、6畳一間のアパートから始まりました。はじめにやってきたのは20代の通信制高校生。「勉強、本当にただで教えてくれるんですか」とやってきました。中学からほとんど学校とは縁がなく、10代後半からホームレス生活をしていました。

それから今まで、「たまり場」は無料で運営を続けてきました。これまでに、多様な背景を持つ、年間のべ2000人ほどの若者たちがやってきました。その多くは、私たちの団体の就労支援などを受けながら、自立し、巣立っていきました。

今も「たまり場」には毎回25～35名が参加。学びなおしをしながら交流し、仲間をつくる大切な場所になっています。

小さな居場所から  
どんどん活動が  
広がっていったんだね

# 私たちの活動の 原点となる事業 からの広がり

子どもや若者たちが教えてくれた  
いま最も必要なこと  
学びなおしの場と居場所づくり

さいたまユースサポートネットの活動が始まって15年になります。私たちの活動の中心には、当初から途切れることなく続けてきた、原点となる4つの事業があります。学びなおしを必要としている子どもや若者たちには、「学習支援」だけでなく、安心して過ごしながら仲間をつくる機会にもなる「居場所」が必要です。

そして、不登校や引きこもりなどにより働きたくても働けない若者たちに寄り添いながら、働く準備をサポートする「就労支援」も、若者のニーズから生まれた大切な活動です。



学習

居場所

学びと仲間づくり、安心できる居場所を

## さいたま市学習支援教室



ボランティアの先生や周りの友達と仲良くなれるようなレクリエーション、ボランティアの先生との会話の時間も大切にしています。

さいたま市の委託を受け、生活保護受給世帯や児童扶養手当全額受給世帯、自立相談支援機関を利用している世帯の子どもたち(小学生、中学生、高校生)を対象とした学習支援教室を運営しています。大学生を中心とした学習支援ボランティアが、子どもたち一人ひとりが抱える勉強や日常生活の不安や悩みをていねいに聞きながらサポートし、勉強を教えたり、一緒に遊んだり、おしゃべりをしたりして、安心して過ごすことのできる居場所をつくっています。そのほかにも、中学・高校3年生の受験生・その保護者を対象に「進路相談会」なども開催しています。

### <保護者の方からの声>

- ボランティアのみなさんがとても熱心楽しくご指導されていることが、子どもの話から伝わってきました。
- 子どもが毎回楽しみに行っているので、親としてとても助かっています。
- みなさんの支えがあつての合格だと思えます。この教室に通えてよかったです。
- 私にはできない話も、職員や学習支援ボランティアには話しているようです。本当に感謝しています。来年度も続けたいです。

居場所

“あたたかい交流”と“自分が行動の主人公であること”が保証される第三の居場所

## たまり場

団体がスタートした2011年から続いている活動です。「たまりん」「まなびん」の二つの場があり、年齢や国籍、所属などに関係なく、さまざまな人が一緒に遊び、教え合い、過ごし方を共に考え、イベントを計画します。目指しているのは、利用者、スタッフという垣根をなくし、<支援する・される>といった関係を超えて誰もが対等な立場で活動できるコミュニティ。参加者一人ひとりが「ここにいていいんだ」と感じられるように、安心・安全が保証された上で話し合いながら活動することを大切にしています。2014年には、NHKのETV特集『本当は学びたい』で紹介されました。

## たまりん(交流の場)

「たまりん」は人とのつながりをつくる場です。机をつけていくつかの島をつくり、島ごとにゲームやおしゃべりをして過ごしています。ボードゲームやカードゲームから新しい関係性が生まれることも。近況報告や世間話、趣味などについて話したり、将来や仕事のことを相談したりしています。

## まなびん(学びなおしの場)

自分で学習を進めながら、わからない問題や課題をほかの参加者やスタッフに相談したり、一緒に考えたりできる場です。参加者の学びなおしを応援するときや、静かに一人で過ごしたいときにも活用されます。教材は参加者が持参しますが、場合によってはスタッフが用意することもできます。



2024年度から堀崎拠点で「たまり場」を開催しています。



クリスマスやハロウィン、遠足など、季節ごとのイベントを開催しています。計画はスタッフだけで考えるのではなく参加者も交えて話し合います。



就労

自分らしさを大切に。社会で働く準備を一緒に進めます

## あそぼっくすみぬま

2024年度からさいたま市の委託事業として運営している、小学生の放課後の居場所。子どもたちは、それぞれの家庭背景がありながらも、学校とはまた違うあたたかい大人との関係性の中で過ごしています。毎月、月企画・夕食会・誕生日会を実施し、季節の工作をしたり、絵本をみんなで読んでみたり、「したい」「食べたい」のような、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切に、企画をしています。夕食会も子どもたちの声から実現しました。支援の形はそれぞれですが、子どもの居場所としてだけでなく、保護者の方の居場所の選択肢のひとつにもなれるよう、日々運営しています。毎日の日誌のほか、子ども一人ひとりの個別対応、ケース会議などをおこない、保護者面談や保護者向けプログラムを実施するなどして保護者との関係づくりもしています。



放課後になると子どもたちが「ただいま!」と元気にやってきます。みんなで一緒に遊んだり、一人で工作に熱中したり、それぞれに自由な時間を過ごしています。



建物のデザインもカラフルで楽しいと子どもたちに人気です。

## はたチカ応援プログラム



個別相談や、先輩利用者の話を聴く会、職業人講話、職場見学、農作業体験のほか、働く上で大切な「自己理解」に関するプログラムもおこなっています。それぞれのペースに合わせて段階的に働く準備をしています。

就労支援「はたチカ応援プログラム」では、さまざまな事情を抱え、「働きたくても働けない」若者をサポートします。「はたチカ」は、「働く力」のこと。本来、「働く力」はみんなが持っているはずですが、一歩踏み出すことが不安だったり、自信がなかったり——。「やってみたら意外とできた!」「思っていたより楽しい!」など、「やってみる」ことでわかる経験を大切にしています。気軽に相談できるスタッフと共に、それぞれがもつ「働く力」を社会で発揮できるようサポートしていきます。

イベントの会場設営、マルシェでの販売体験、カフェスタッフ、農作業などさまざまな仕事の体験の場を提供しています。



さまざまな企業のご協力のもと職場見学をさせていただき、現場で働く方にもお話をうかがっています。

**居場所** 専門家のサポートのもと、交流を通して社会参加を



さいたま市若者自立支援ルーム (桜木・南浦和)



趣味、学習、ゲーム、スポーツや演劇、季節ごとのレクリエーション、外出体験、地域のボランティア体験などをプログラムに取り入れ、利用者が「行ってみたい」と思える居場所を目指しています。

さいたま市の委託により、**桜木ルーム**は2013年9月、**南浦和ルーム**は2021年4月に開室しました。利用対象は15歳から39歳まで幅広く、家族・他者との関係性、自己肯定感、将来への展望などに、不安やストレスを抱えている若者たちが通っています。スタッフには、公認心理師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカー、就労支援、家族支援の専門家や教員経験者などを配置しています。利用者の悩みに寄り添い、支援方法について協議を重ねながら、必要に応じて保護者面談、関係機関とのケースカンファレンスもおこなっています。

どんなプログラムやイベントがあるの？

通常プログラム

手芸・工芸



毎週金曜日には、プラバン、アイロンビーズ、UV レジン、スクラッチアートなど、季節の工作をおこなっています。おしゃべりしながら、時には黙々と集中しながら、思い思いの作品をつくりあげています。

ボードゲーム



UNO やトランプなどみんなで楽しめるものや、ちょっと頭を使うものまで、さまざまなボードゲームを楽しんでいます。ほかの利用者と関わり、仲良くなるきっかけづくりになっています。ボードゲ(ボードゲーム)サークルでは、ボードゲカフェに外出することもあります。

年間のイベント

クリスマス会



年に一度のクリスマス会では、部屋の飾りつけも自分たちでして、利用者が歌を歌ったり、ハンドベルやバンド演奏をしたり、落語をみんなで聞いたりして、楽しい時間を過ごしています。

特別プログラム

演劇ワークショップ



青年劇場の劇団員の方が講師となり、実施しています。利用者だけでなくスタッフやボランティアも一緒に参加して演技を楽しみます。動きをつけて大きく演技する人、まずは本を読み徐々に慣れていく人、自分で台本を製作する人などさまざまです。劇場で舞台鑑賞をすることもあります。

講座

生活に必要な知識や、自立に向けて身につけておくべき知識などを学ぶための講座プログラムを開催しています。講師は、職員や外部講師です。

<講座の例>

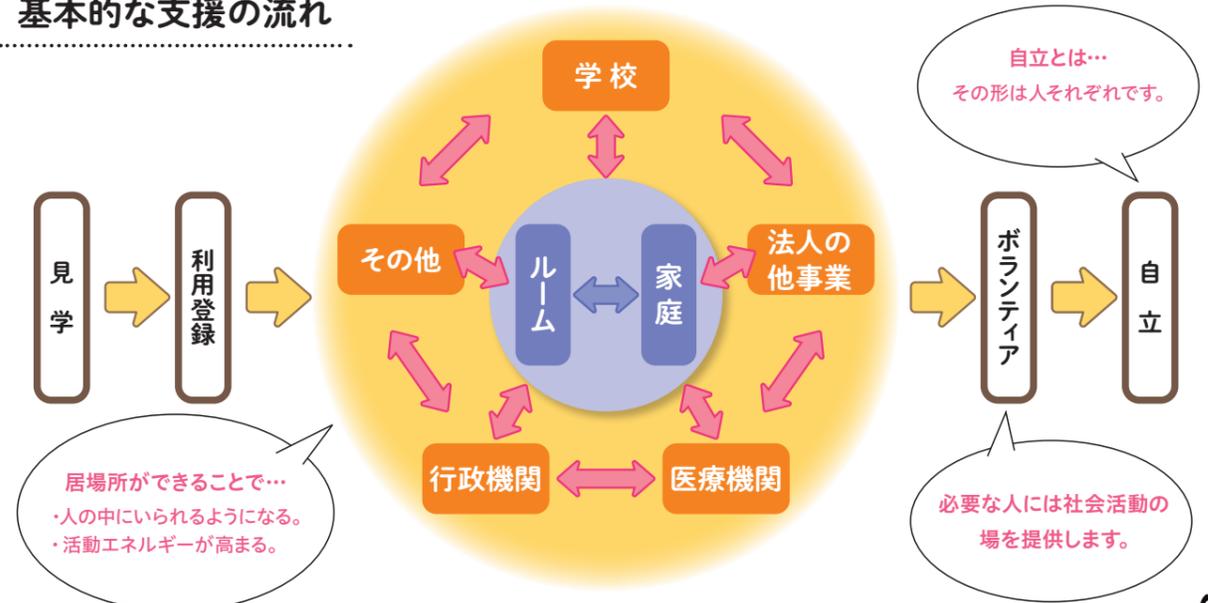
- 初心者のためのPC講座
- 日常に役立つ心理講座
- お仕事講座  
「VRT カードで自分を知ろう」
- 初めての資格取得講座
- 子どもに関わるお仕事講座

外出プログラム



畑作業で野菜を育てたり、さまざまな場所に外出したりもします。埼玉県立近代美術館、市民の森グリーンセンターや、大宮国際動物専門学校見学、大宮散歩などにも出かけました。

基本的な支援の流れ



安心して過ごせる居場所ができることで、人の中にいられるようになり、活動エネルギーが高まっていきます。自立の形は人それぞれです。「本人が望む自立」をサポートするうえで、自立支援ルーム内だけの支援にとどまらず、必

要があれば外部(学校、行政機関、医療機関、さいたまユースのほかの事業など)と連携をとりながら関わることもあります。同行支援、ケースカンファレンス、医療状況の共有、ボランティア活動体験の提供などもしています。



上尾市子ども若者自立支援事業 ルームここから

上尾市の委託により、子ども支援の市民団体やボランティアの協力を得ながら、2020年5月から開始しました。火曜日と木曜日の週2回開催しています。予約しなくても気軽に立ち寄れる居場所です。利用対象者は上尾在住の39歳までの若者です。最近では、高校生をはじめ10代の登録者も増えています。ひきこもりから徐々に生活のリズムを整えていこうとする人、人との交流に慣れていくための居場所を求める人、発達障害や特性からコミュニケーションに課題を抱える人や、アルバイトをしながら、職場でも家庭でもなく気軽に話ができる場を求める人のほか、児童自立支援施設入所者や障害者手帳保持者、LGBTQ+の当事者など、さまざまな人が利用しています。



基本的に午前中はフリータイム、午後は料理やスポーツ、自己理解プログラム、テーマトークなど日替わりでプログラムがあります。

プログラムイメージ

	火曜日		木曜日	
	AM	PM	AM	PM
第1	フリータイム おはなし・ゲーム	テーマトーク (コミュニケーション・交流)	フリータイム おはなし・ゲーム	自己理解プログラム
第2	フリータイム おはなし・ゲーム	屋内スポーツ (卓球・スイッチ他)	フリータイム おはなし・ゲーム	アート系プログラム (アートセラピー・絵画教室他)
第3	フリータイム おはなし・ゲーム	調理プログラム (家庭料理、スイーツ他)	フリータイム おはなし・ゲーム	屋外スポーツ (モルック・ポッチャ他)
第4	フリータイム おはなし・ゲーム	学習系プログラム (PC講座他)	フリータイム おはなし・ゲーム	清掃活動 (内外)
第5	第5週については、適宜イベント開催。別日との入れ替えあり。月の最終日に清掃を実施しています。			

※当日の利用者の状況に応じて、選択肢を設け、柔軟に対応しています。



基本的には屋内で過ごすことが多いのですが、屋外でのスポーツや、清掃活動をおこなうこともあります。

居場所 バーチャルで冒険しよう、メタバースでつながろう



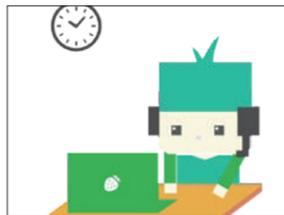
## 埼玉県バーチャルユースセンター



2024年10月、埼玉県のメタバース空間「バーチャル埼玉」内の相談エリアに、子ども若者のための新しい居場所ができました。県内に住む子どもや若者（小学生から大学生年代程度）なら誰でも利用できます。バーチャル空間ならではのプログラムや体験交流活動、寄り添い型の相談支援を通して、学校から社会への移行期を支えます。アバターを通じて新しい友だちをつったり、みんなで交流したり、困ったときにはスタッフに相談したり。誰にでも開かれたバーチャルな空間から、「一歩」を踏み出すきっかけに。

### バーチャルユースセンターでどんなことができるの？

#### 仲間とつながる



バーチャルで出会った友だちと遊んだり、スタッフと気軽におしゃべりしたり。何もしないで一人のんびりと過ごすこともできるよ。

#### 交流・体験する



多彩なプログラムを通して、いろいろな地域の子や若者と知り合えるチャンス。趣味の合う友だちを見つけたり、新しい仲間と一緒に交流したりして楽しもう。

#### 学ぶ・仕事を知る



知識や学びを深めるプログラムや、いろいろな職業の話聞けるプログラムを開催。みんなで一緒に宿題をすることもできるよ。分からないところはスタッフに聞いてね。

#### 相談する



やりたいことや将来の夢、学校や家族には言いにくいこと、困ったことや悩みがあったら、いつでも相談してね。専門スタッフがあなたを待っているよ。

#### リアルでつながる

バーチャル空間で出会った友だちとリアルなイベントで交流することもできるよ。

スタッフからひとこと

### どんなスタッフがいるのかな？



とみー

埼玉県生まれの埼玉県育ち。好きな食べ物は深谷ネギと浦和のうなぎ。I LOVE 埼玉！よろしくお願ひします！



ゆきんこ

北海道出身。アニメとマンガと旅行が好き。シマエナガに似てるって言われます。ここののんびりおしゃべりしましょう〜。



じえぶりい

東京都出身、埼玉県在住。鶏から揚げが大好きなので、静かにさせたい時に与えると有効！皆さんに会えるのが楽しみです！

### 登録/利用の流れ

登録  
バーチャルユースセンターは事前登録制です。(2025年3月現在)  
右のQRコードから登録できます。義務教育段階の方は保護者の同意欄への記入が必要です。



利用  
バーチャル埼玉トップページからブラウザまたはアプリでアクセス。  
↓  
自動的にエントランスに移動するので、画面下の「エリア」から相談エリア（バーチャルユースセンター）を選択。  
↓  
さまざまなプログラムをお楽しみください。



※埼玉県バーチャルユースセンターは埼玉県の委託事業です。

## バーチャルユースセンターのプログラムを、ちょっとのぞいてみよう！

### 「観るラジオ☆バーたま！」

埼玉県バーチャルユースセンターのスタッフが毎月ゲストを迎えてお送りする「観るラジオ☆バーたま！」。まるでラジオを聴くように、リラックスしておしゃべりしましょう。初回ゲストは現役高校生のちゅうたくんです。

——ちゅうたくくんは、パーソナリティーとみーの年の離れたお友だち。自分の人生をしっかりと選んで、力強く歩んでいる心やさしい青年です。それではさっそく、本日のゲストちゅうたくくんをお迎えしましょう！  
「こんにちは！ちゅうたくです。県立高校の単位制定時制課程の2年生です。部活はバドミントン部、生徒会もやっています。7歳の時に出会った太鼓集団「響」の活動と別所沼プレイパークのスタッフも。最近はバイトも忙しいかな」  
——小中学校時代はどんな子だった？  
「小中学校時代、地元の学校には一度も

### 自分で決める、「その時」が来るまで見守って

行っていません。大人に管理されて大勢で過ごす場合は、自分には合わないかなって感じて。それで、お母さんと一緒に『デモクラティックスクールさいたまあみゆーず』をつくりました。

デモクラティックスクールはカリキュラムがないから、その日何を学ぶかをみんなで話し合って決めます。テストや通知表で評価されません。スクール全体の予算の使い道も自分たちで決めるんです。大人は先生じゃなくて、ぼくらをサポートしてくれるスタッフの位置づけです」

——チャットで質問がきています。デモクラティックスクールって初めて聞いたけどフリースクールとの違いってなんですか？  
「フリースクールは不登校の子を支援する印象が強いかな。学校復帰を目指すこともいいことだと思う。デモクラティックスクールはもっと広い意味で、ありのままの自分が尊重される場所」

——学校に行かない選択をしている子、不登校の状態にある全国の小中学生が過去最多の34万人と、年々増えているよね。ちゅうたくくんはどう感じる？

「学べる場所は学校以外にもたくさんあると思っています。ぼくもたくさんの人に出会ってきたから。本人がやりたいと思う時、行動を起こしたくなる時が必ずくる。だから親や周囲の人たちは、その時が来るまで見守っていてほしいですね」



### 「きいたんの部屋」

### 不登校の親子を笑顔に。あなたは一人じゃない



いてもらう中で、私自身が徐々に元気になり、ざわざわしていた心が整った感じがしました。親子で人生に向き合う時間は不登校からの「プレゼント」のようなものだったかも。現在では、サポートする側になりました」

——きいたんの心が整った理由って？  
「環境が大きかったかな。最初は息子のことを一人で背負って、何かしなければと焦っていました。何とかしたい気持ちがあっても、一人だと難しい。同じような悩みを抱えた仲間が全国から集えるオンラインは、否定されない、あたたかい雰囲気だった。未来に向かっていこうという気持ちになれました」

学校に行かない選択をしている小学生の男の子のお母さん、きいたん。3年前から、不登校の親子たちの寄り添いと活動の場「不登校ーズマルシェ」「好き学マルシェ」を仲間と主催しています。

——現在の活動のきっかけは？  
「きっかけは、不登校の子を持つ親向けのオンラインサロン。息子が学校に行かないようになってから、オンラインで悩みを聞

室で、埼玉県バーチャルユースセンター（VYC）を紹介されました。息子さんはVYCに時折遊びにくるようになり、VYCのプログラム「推しトーク」で趣味を披露することも。

——きいたんがVYCに期待していることは？  
「教育支援センターや相談室に行けない子もまわりには多いので、そうした子たちの居場所のひとつとしてバーチャル空間が活用されればいいなと思います」  
——不登校に悩む保護者へメッセージを  
「親が変わると子どもも変わるということを実感しています。マルシェリーダーとして全国を飛び回っているの、忙しくて悩み過ぎなくなりました（笑）。親自身が自分の中にエネルギーをためることが大切な。子どもは親をよく見ていて、私が笑顔なら息子も笑顔だから」

まだまだあるよ！  
多彩なプログラム

詳しくは「[埼玉県バーチャルユースセンター](#)」で検索してね！バーチャルユースセンターでは多彩なプログラムを用意しています。聞くだけの参加もOK。お気軽に参加してください。

# ローカル・コモンズ =居心地のいい 地域を目指して

地域との協働で

一人の子どもや若者も

取り残さない社会を実現したい

子どもや若者の不安や孤独感を解消するためには、「地域の中に、自分を認め、受け止めてくれる居場所がある」という安心感が何よりも必要です。安心して相談や仲間づくりができる「地域の居場所」であり続けること、それが私たちの使命です。

地域の人々が参加しながらつくる「ローカル・コモンズ」を実現させるため、子ども・若者を中心に全ての世代が居心地のよい地域を目指して活動を続けています。実現のためには、地域、行政、教育機関、企業のみならずの力が必要です。

2009年 日本テレビ NNNドキュメント「貧困社会ニッポンの教育(2) 高校中退」  
**モデル事業として、日本中へメディア発信!**  
2014年 NHK ETV特集「本当は学びたい」ほか、テレビ、新聞、雑誌など取材多数!

## 地域づくり

地域の方々との協働で、  
子ども・若者を見守る  
持続可能なセーフティネットを  
つくります。



### 居場所支援

安心できる居場所を通して  
地域社会とのつながりを  
実現します。

### 就労支援

自分らしさを大切にしなが  
ら、  
社会で「働く」ための  
準備を進めます。



### 地域社会が協働するモデル 「堀崎プロジェクト」始動!

14ページから  
紹介するよ!



### 学習支援

子どもや若者たちの学びや  
学びなおしの場をつくれます。  
家族や子どもの生活のサポートもします。

# 堀崎 プロジェクトって なんだろう？

さいたまユースの新たなチャレンジ  
地域の課題を包み込む  
「ローカル・コモンズ」のモデルに

みんなでアイデアを持ち寄り、  
楽しみながら地域づくりを！

これまでのさいたまユースの活動を生かし、さらに前に進めるための新たなチャレンジが始まりました。2021年、さいたま市見沼区にて、「堀崎プロジェクト」を発足。地域の自治会や学校、民生委員、企業などと連携しながら、地域のネットワークを充実させて子どもや若者の問題の解決と支援の充実を目指します。  
子どもや若者に限らず、赤ちゃんからお年寄りまで、多世代の多様な人たちが自然に集まり、みんなでアイデアを持ち寄り、楽しみながら地域をつくっていくコモンズ形成を目指しています。

2021年1月  
START!

## 拠点は、さいたま市見沼区堀崎町！



裏側のカフェは堀崎中央公園に隣接しています。子どもたちや地域の人との交流も盛んです。

「堀崎プロジェクト」の拠点は、堀崎町、堀崎公園の一角にある広々とした施設です。カフェとレンタルスペース、子どもの居場所、就労支援事業などを併設し、自然と人が集まり、交流できる場を目指しています。「堀崎プロジェクト」では、地域のネットワークで困難を抱える子ども・若者を支援していきます。静かに過ごせるゆったりエリアでは、のんびりとお絵描きやアナログゲームで遊んだり、本を読んだりして過ごせます。雨の日も体を思いきり動かして遊べるわんぱくエリアはちょっとした体育館のようなスペース。子どもたちはスタッフやボランティアのお兄さんお姉さんと思いきり楽しんでいます。

## 地域の人たちが集う Commons Cafe (コモンズカフェ) も併設！



公園からアクセスできるゆったりとしたカフェができました。ランチには甘口の「10種の野菜ジャムスイート&スパイスベジカレー」、台湾出身の店長がつくる「台湾おふくろの味ルーロー飯」、「お子さまカレーセット」などをお楽しみいただけます。地域の交流イベントやカルチャースクール、カフェスペースの貸し出しもしています。



埼玉県川島町の卵専門農場、「鈴木農場」さんの高級卵を使用した、濃厚な手づくりプリンも人気です。



## コミュニティカフェの役割も！

カフェには子どもたちに人気の絵本コーナーもあり、音楽のイベントや、就労支援に参加する若者のアート展示会には、地域の方が多く訪れます。代表が主催する「哲学対話カフェ」には、自治会役員の方、たまり場のボランティア、子ども・若者支援に関わる地域の方などが参加し、お茶や食事を楽しみながら世界の社会課題について意見を交わし、楽しい時間を過ごしています。みんなの居場所、コモンズカフェでお待ちしています！



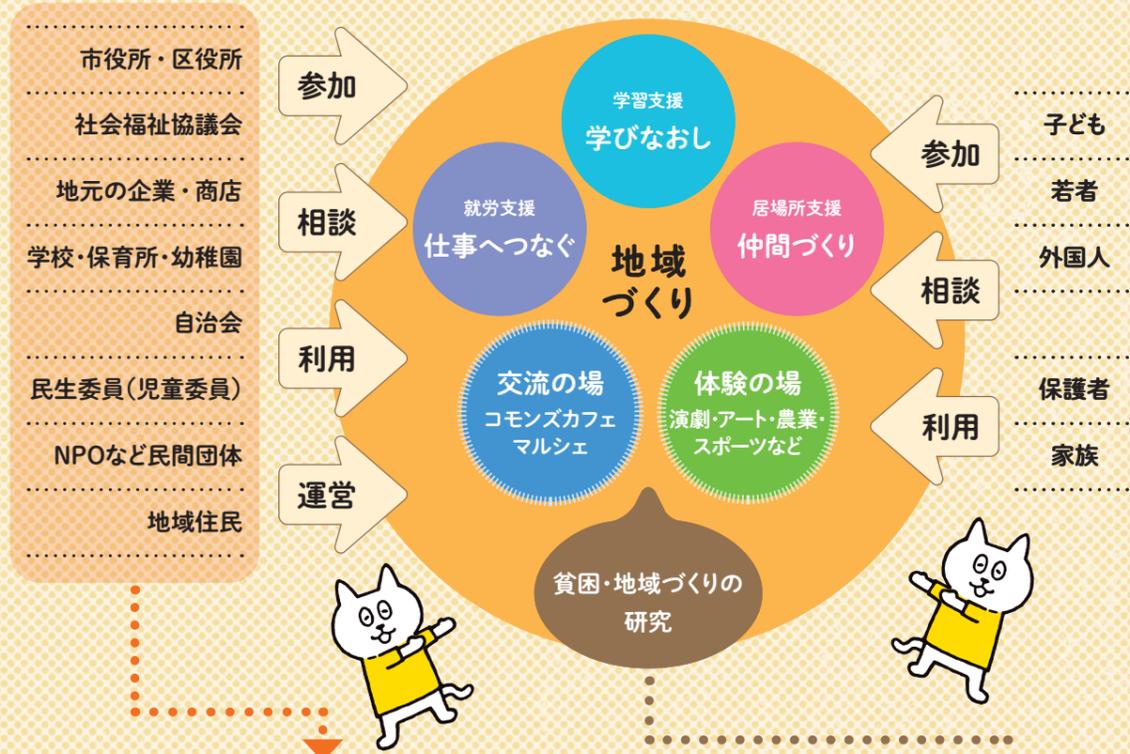
# 堀崎を「ローカル・コモンズ」の全国モデルに！

地域の自治会、社会福祉協議会、民生委員（児童委員）など住民の自治組織、企業、NPOなど民間団体との協働で「堀崎プロジェクト」と名づけた活動をはじめました。日本ではまだほかに例を見ない取り組みです。生きづらさを抱えた子どもや若者、外国にルーツを持つ子どもや若者、さらに地域の全ての子どもたちに対して、学習、文化・芸術、スポーツ、旅行、仲間づくりなどのさまざまな体験の支援をおこなっています。地域の「支え合い」の担い手となるのは団体スタッフだけでなく、地域の人たち。持続的な活動するために、全ての活動をコミュニティの共有財「ローカル・コモンズ」にしたいと考えています。

地域のみんで  
いっしょに  
つくっていくんだね！



## 堀崎プロジェクト



## 運営協議会

堀崎プロジェクトの推進役を担う「堀崎プロジェクト運営協議会」。地元自治会、社会福祉協議会、民生・児童委員、市民活動グループ、区役所や教育委員会、児童精神科医師などから代表者・担当者が一堂に会し、地域の課題の洗い出し、支援の仕組みづくりなど、今後の活動に向けた意見を共有し、話し合いを進めています。第2回



堀崎プロジェクト運営協議会には16名が参加。活発な意見が交わされました。「無料で使えるとわかったら、もっと地域の方々が集まって来るのではないかな」「学校との連携が重要」「要支援者の情報を市と連携できないだろうか?」「本来行政の手が届かないことを担っている。支援者から協力を得るために分かりやすく具体的に提示する必要がある」「親御さんが緩やかになれる安全安心な場所、表現していける場所にしていきたい」今後も多くの方々の意見をうかがいながら、よりよい活動につなげます。

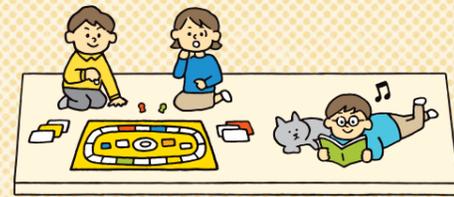
## 評価委員会



大学の研究者、支援者などに評価委員会に参加していただいています。地域ニーズの拾い方、教育機関や関係機関とのつながり、地域の企業とのコラボレーションの重要性など毎回とても貴重な意見をいただいています。

# 堀崎プロジェクトでは、どんなことをしているの？

いろいろな事情で体験の機会が少ない子ども・若者たちが、安心できる環境で、仲間たちと一緒にさまざまな体験ができる機会をつくっています。子どもや若者たちのアイデアで新しい活動が生まれ、地域の人たちから、「こんなイベントができますよ!」と声をかけていただき実現することも。活動はどんどん広がっています。



## 体験の場 ほりさきたまり場、子どもたちに「ほりたま」と呼ばれています!

### 音楽 歌を通して仲間をつくろう!



小学校1年生から20歳までが参加している、歌を通して交流する音楽プログラム「音楽で遊ぼう」。テノール歌手で合唱指導者の東海林さんと伴奏ピアニストの堀家さんが楽しい場をつくっています。2024年度は、浦和北ロータリークラブ主催「SDG's チャリティコンサート」に招かれ、彩の国さいたま芸術劇場の音楽大ホールという大舞台で歌ったり、商工会のイベントで合唱を披露したりすることもできました。歌うことの楽しさはもちろん、歌を通して仲間と一緒にさまざまな体験を重ね、子どもたちは確かな自信をつけています。最近では外国ルーツの仲間も加わり、発表会へ向けて練習をしています。



発表の場も広がっています!

「SDG's チャリティコンサート」では彩の国さいたま芸術劇場で歌を披露!



クリスマス会にも招かれました。

## Topics! 「音楽で未来を!」～浦和北ロータリークラブから楽器を寄贈されました



ミニコンサートでは、アニメ「鬼滅の刃」の主題歌「紅蓮華」などが、迫力あるバンド演奏で披露されました。楽器初心者の小さい子どもたち、バンド演奏に興味のある若者たち、そして大人も一緒に楽しみました。

浦和北ロータリークラブよりバンド楽器を寄贈いただき、贈呈式がおこなわれました。エレキギター、アコースティックギター、ベースギター、電子ドラム、キーボードなど初めて手にする楽器ばかり。ロータリーの皆さんがやさしく教えてくれました。

「ドラムが一番楽しかった。ギターもやってみたい」「ピアノの弾き語りをできるようになりたい」「もっと楽器に触りたい」「とても楽しかったし、刺激になった」と、参加した子どもたちの笑顔が弾けていました。

今後は、楽器にまだ触れたことのない

子どもたちや、音楽で仲間とつながりたいという若者たちと、同クラブ会員有志のみなさまと一緒にバンド練習をしながら、発表の機会も提供していただきます。子ども時代の豊かな経験は、将来を生き抜く「力」になります。



### ダンス 自分を解放してダンスに触れる楽しさ発見!



さまざまなアプローチからダンスに触れる楽しさを発見するクラス。自分を開放したい人、ダンスをしてみたい人、誰かと一緒に踊りたい人に向けて、プロダンサー小暮さんがおこなうワークショップです。

### 空手 初めてでも大丈夫。リピーター続出中



護心会の代表師範と一緒に空手を体験するワークショップです。月に2回不定期で実施。はじめて空手を体験する子どもたちにも丁寧に教えてくれるので、繰り返し参加する子どもたちが増えています。

### 畑 みんなで野菜を育てています



広い畑をお借りして、就労支援の参加者の若者たちが、ジャムをつくりたいとイチゴを育てています。自然に触れ、育てる楽しみ&食べる楽しみを満喫。化学肥料や農薬を使わずに育てた野菜は、カフェでも提供しています。

### 演劇 全身を使って感情表現!



劇団「青年劇場」の俳優が、演劇初体験でも楽しく参加できるワークショップをおこなっています。全身を使って感情表現したり、簡単な台本を読んだり。参加者からは大きな声や笑顔がこぼれます。

### 絵本のワークショップ



絵本専門士や地域のボランティアの皆さんのご協力で、絵本の読み聞かせや工作、季節の歌などを取り入れたワークショップをおこなっています。子どもたちは元気いっぱいです。

## Topics! 「地域」に子どもをつないでいこう!

### 14周年のイベントを開催 清水勇人さいたま市長との交流も

2024年10月27日、地域交流イベント「地域の子ども・著者たちとともに～さいたまユースの14年」を開催し、地域の方々、企業・団体の皆さまなどの参加をいただきました。

第1部は、宮本みち子千葉大学・放送大学名誉教授の基調講演。宮本教授は、不登校やひきこもり、貧困や格差から生

じる困難さは必然の社会問題であると指摘し、さいたまユースの存在意義を語っていただきました。

第2部は、音楽プログラム「音楽で遊ぼう」に参加している子ども若者たちの心をこめた合唱で幕を開け、清水勇人さいたま市長による講演「さいたま市の子ども若者政策とまちづくり」がおこなわれました。政治を志した原点として、自身の子ども時代の家庭の困難さや、大学生の時に訪れたタイの難民キャンプでの

ボランティア、ベトナム戦争取材したカメラマンとの出会いなどについて語っていただきました。

第3部は、コモンズカフェに場所を移し、清水市長も参加して交流会を実施。青砥代表理事はさいたまユースの14年の歴史を振り返り



講演中の清水勇人さいたま市長

ながら、「社会で放置されている子どもや若者を地域につなぎ、その成長を支えるのが私たちの使命。子どもから高齢者まで世代を超えて他者とのいろいろな関係をつむぐ場所「ローカルコモンズ」を、地域社会の中につくる必要がある」とあらためて決意を述べました。



「音楽で遊ぼう」の子ども・若者たちの合唱の様子



## 居場所

### 学習

## 子どもたちが主体的に過ごせる放課後の居場所

### あそぼっくすほりさき

異年齢の集団での遊びも、一人で集中する時間も楽しい!



次は何して遊ぶ?

「あそぼっくすほりさき」は、体育館のようなスペースもある広々とした施設。子どもたちの放課後の遊び・学び・生活を保障し、自立する力を育てる場です。子どもたちの自主性に任せ、それぞれが創造的な遊びを楽しんでいます。人気がある遊びは、アクアビーズやレゴブロックなど。最近では工作の時間を設け、「紙しゃぼん玉」をつくりました。つくっている途中で、「これ、お花にもなるよ!」と気づいた女の子が花束をつくり始めました。このような柔軟な発想にはスタッフも驚かされます。体を思い切り動かしたい子どもたちは、アリーナ(体育館)を使い、鬼ごっこやだるまさんがころんだなどを楽しんでいます。遊びの中では、高学年の子がルールがわからない子に積極的に教えてあげる姿も見られ、お互いに関わり方を学び、刺激を受けながら成長していきます。異年齢の子どもたちが集まって遊ぶ中で、遊びがさまざまに発展していく様子をスタッフも楽しみながら見守っています。

広いアリーナ(体育館)があるあそぼっくすほりさき。異年齢が集まって、体を使ったダイナミックな遊びもできます。

紙しゃぼん玉やアクアビーズ、レゴブロックなども人気!



はい、チーズ!

秋には、さいたまコースの畑に出かけて芋掘りも楽しめます。



## 居場所

## 外国にルーツのある子どもたちと文化交流を楽しんでいます!

### 多文化クラブ(てんきりん共催)



さまざまな背景を持った子どもたちが、自分のルーツを活かして自分らしく力を伸ばし、日本社会で活躍できるように、仲間と一緒に楽しく学び合うクラブです。子どもたちのリクエストでお団子づくりをしたり、日本語を学んだりすることも。相談も気軽にできます。多文化クラブの参加者と一緒にマルシェで歌を披露したり、ワークショップで地域の方々と交流したりしています。



## 居場所

## 子育て中のお母さん、お父さんの相談会も開催しています

### 地域と一緒に子育てを!

地域で孤立している子ども・若者を支えるさいたまコースの活動に、保護者支援は欠かせません。「一緒に子育てしましょう!」というメッセージを送りながら、居場所活動の中で、個別相談や保護者向けイベントを開催しています。子育てに悩む保護者の方からの問い合わせも多く、地域の支援ネットワークと共に家族を支えます。



## 交流の場

## もっと地域とつながりたい!

### ほりさきマルシェ

地域の人たちでにぎわう緑日



定期的で開催している緑日形式のイベント。地域の人なら誰でも参加でき、400名以上が訪れることもあります。地元の農家さんによる野菜販売、ハーブ製品の販売、ハンドメイドグループのワークショップなど出店も盛りだくさん。屋内のステージでは、スペース貸し出しを利用しての団体が太極拳やキッズダンスを披露しました。



地域の方による人形劇も披露され、子どもから大人までみんなで楽しみました。



若者自立支援ルームの若者がつくった切り絵作品の展示販売。緻密な絵柄をカッターで切り出しています。

ハンドメイドグループのHappy Time から7店の出店がありました。アクセサリづくり体験は大人にも子どもにも大好評!



### 子ども食堂

カフェスペースで子ども食堂開催中!

おいしいよ!

コモンズカフェでは、子ども食堂「ほりさきコモンズキッチン」を開催しています。参加した子どもたちからは「楽しい!美味しい!」「コロナで友だちと食事をする機会がなかったから嬉しい!」という声が聞こえてきます。お迎えにきたお母さんたちは子育てで情報を交換したりカフェスタッフと談笑したり。何気ない会話の中から子どもの悩みや家庭の不安をキャッチすることも。子どもたちだけでなく、地域の方とつながっていくきっかけとしても大切な活動です。



「家で一人で遊んでいるより楽しい!」「友達と一緒にごはんが食べられるから楽しい!」と子どもたち。栄養バランスを考えた美味しいような料理を前に、笑顔がこぼれます。



クリスマスには、株式会社ドミノ・ピザ ジャパン様からのピザ提供のサポートもありました。



### スペース貸し出し

アリーナなどの利用も増えています!



地域みなさんに、アリーナやスタジオの貸し出しをおこなっています。キッズダンスや卓球、ヨガ、体操教室など、現在は11団体が定期的に利用中です。団体によっては、ほりさきマルシェのステージでも練習の成果を発表。「これまで発表の場がなかったけれど、発表の場ができてうれしい!」という声も。

### フードパントリー

必要な世帯に食料の配布を!



さいたま市内の企業(浦和北ロータリークラブ参加企業)から、毎月お米を120キロ、そのほかにも埼玉県少子政策課、埼玉県社会福祉協議会、日本証券業協会の子どもサポート証券ネットなどから食料品を提供いただき、必要な世帯に配布しています。

安心して過ごせる地域になるといいなあ



さいたまユースの連続講座が書籍化!

# 分断と孤立を超えて —— 困難があっても生きられる場をつくる



「子どもの貧困から15年、こども家庭庁に求めるもの」と題した全10回の連続講座と、総括シンポジウムを2023年10月から2024年1月にかけて開催しました。「子どもの貧困」という言葉や、困難を抱えて生きる子どもや若者の存在が社会問題として可視化されてから15年。日本の子どもの9人に1人が相対的貧困(厚生労働省国民生活基礎調査・2022年)の状態にあり、不登校の小中学生は把握されているだけでも全国で約34万人(文部科学省調査・2023年)と、子どもや若者を取り巻く環境は厳しさを増しています。貧困問題の研究調査や子ども・若者支援の最前線で活躍の講師陣をお招きし、子どもの貧困の現状をあらためて捉えなおしたこの講座が本になりました。



専門家のみなさまのご講演、そして対談は、日本の子どもや若者の貧困の現状、日本社会の到達点と課題について考える有意義な時間となりました。  
代表 青砥 恭



## 「子どもの貧困」にさまざまな研究分野からアプローチ

- 第1回 **こども家庭庁の意義と課題**  
—— 子ども政策と若者政策の統合に向けて  
宮本みち子さん(千葉大学・放送大学名誉教授)
- 第2回 **子どもの貧困とスクールソーシャルワーク**  
福島史子さん(スクールソーシャルワーカー)
- 第3回 **「子どもの貧困」が照らした学校教育の貧困**  
児美川孝一郎さん(法政大学教授)
- 第4回 **貧困解消のために研究ができること**  
阿部 彩さん(東京都立大学教授)
- 第5回 **ひとり親家庭と社会的支援**  
赤石千衣子さん(しんぐるまざあず・ふぉーむ理事長)

- 第6回 **貧困問題と市場化がもたらすもの**  
木下武徳さん(立教大学教授)
- 第7回 **若者の困難と「全世代型社会保障」の行方**  
宮本太郎さん(中央大学教授)
- 第8回 **児童心理治療施設から見た「子どもを取り巻く社会の変化」——「失われた20年」とその再生**  
早川 洋さん(こどもの心のケアハウス嵐山学園施設長)
- 第9回 **外国につながる子ども・若者をめぐる貧困と孤立——学校と地域がつながる教育実践の可能性**  
磯田三津子さん(埼玉大学准教授)
- 第10回 **学習支援とケア**  
柏木智子さん(立命館大学教授)

# 『貧困・孤立から 子どもの未来を考える』

「コモンズ」が再び注目される時代が到来!

困難があっても、誰もが普通に生きられる社会を目指すため、「格差と貧困の15年」の課題と先駆的実践をまとめました。不登校34万人、虐待やヤングケアラーにみる養育困難の増加、親の孤立……。困窮と不利の連鎖を断ち、生きる場とつながりをどう保障することができるのか。連続講座で登壇した各分野の研究者と支援のエキスパート10人に、大阪釜ヶ崎の認定NPO法人「こどもの里」理事長の荘保共子さんを加え、子ども・若者の困難をめぐる課題を示し、いのちを支える取り組みを伝えます。つながりを編みなおし、コモンズをつくるにはどうすればよいかに迫ります。



青砥恭 + さいたまユースサポートネット 編  
2,640円(税込) 太郎次郎社エディタス

## 書評 「本書もまた、ローカル・コモンズである」

——そんなの、昔はみんな、当たり前だった。

貧困・虐待・ヤングケアラーなど、子どもや若者を取り巻く社会課題に携わっていると、しばしば聞く言葉である。昔の子どもたちは集まれば「腹減ったなあ」が合言葉で、丸めた新聞紙のボールを持ち寄って遊び、誰もが近所の頑固爺からゲンコツを食らい、家に帰れば小さな弟や妹をおぶっていた。

そう、そんな昔はみんな、当たり前だったのだ。

では昔の当たり前が、今はなぜ、なにが問題なのだろうか。想像してみてください。

「腹減ったなあ」は、もはや仲間の合言葉ではない。ゲームが無ければ、持ち寄って遊ぶ輪には入れない。理不尽な暴力を受けていても、それを周りに知られることは恥ずかしい。きょうだいの世話のために、放課後は誰より先に教室を出る。そんな日々が「あなただけの当たり前」だとしたら。突き詰めると、現代の子どもや若者を取り巻く社会課題は「孤立」に収束すると言えるだろう。

本書は、そんな孤立に立ち向かう、12人のトップランナーによる共闘の足跡である。

第I部は、研究者が中心となって、豊富なデータに基づいた冷静かつ客観的な分析を通じて、今の子どもや若者が抱える孤立リスクの正体を明らかにしていく。しかし読み進めていくと、単なる考察を超えたメッセージもそこに込められていることに気づく。こども家庭庁への期待であったり、NPO等の市民活動へのエールであったり、それらは全て「子どもの未来をあきらめない」という強い希望を伴って、第II部へと続いていく。

第II部では、各分野の実践者が抱えている課題が読み手に共有される。多くのSOSに呼ばれてきたはずの著者らでさえ「そもそも助けてと言えない子どもや親がいる」ことを揃って強調する。外国にルーツのある子どもたちや貧困状態にある子どもたちに学習支援が必要なことは分かっている、当人が「将来のために勉強しよう」という気持ちにならなければ、そもそも支援のスタートラインに立つことさえ難しい。

終章では、編者である青砥恭がローカル・コモンズという概念を提唱して、本書の希望と課題とを止揚する。青砥によれば、ローカル・コモンズとは包摂的な地域コミュニティであり、究極的には「地域の子どもたちを地域のみならず育てていく」という価値を共有するまちづくりである。

誰もが貧しくて助け合っていた昔をただ懐かしむのではなく、現代社会の課題を個人や世帯に押し込めて孤立させるのではなく、新しい時代のローカル・コモンズを子どもたちと共に創っていく。そこに希望を見るのである。

課題でさえも、寄せ集まれば希望となる。その点で本書もまた、ローカル・コモンズである。

一般社団法人 ソーシャルベダゴジネット

代表理事 **松田 考さん**

<プロフィール>  
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会/こども若者支援担当部長。現場で困難を抱える若者や家族の相談に応じながら、地域社会による子育て(ソーシャル・ベダゴジー)に取り組んでいる。



# さいたまユース サポートネット 利用者の声

一人ひとりの小さな声に  
耳を傾け、寄り添って  
共に歩み続ける

さいたまユースサポートネットを利用した子どもや若者たちの背景はどのようなものなのでしょうか。また、利用したことでどんな変化があったのでしょうか。現場のスタッフから見た子どもや若者たちの様子、実際の子どもや若者たち、家族の声を集めました。

外に出る  
きっかけがほしい

精神疾患のある  
親がいる

誰かと関わりたい

同年代の  
集団活動が  
苦手

子育てが楽しいと  
思えない  
(保護者)



両親の仲が悪いので  
自宅以外の居場所が  
ほしい

ネグレクトのため  
自分で家事をしている

DV・離婚が  
原因で  
不登校

幼い時に家族を亡くし、生活保護を受けて一人で生活していましたが、畑での農作業に参加し、それからグループホームに入り、毎日の食事などが保証され、日々の生活を安心して送ることができるようになりました。

中学でいじめにあったことから、不登校になり、昼夜逆転の生活をしていました。毎日、居場所に出かけることで生活リズムが整い、高卒認定試験を受けて合格できました。

人込みの中ではパニックになってしまい、一人で家から出ることができませんでした。居場所のスタッフが自宅へ迎えに行き、一緒に電車に乗る練習を何度もしました。今では、電車や自転車で外出できるようになり、アルバイトを始めています。



違う年齢の友達が多く  
参加しやすい



頼れる人が  
増えた



同じ趣味を持つ  
友達ができる

少しずつ  
自分を表現  
できるよう  
なった

のびのびと  
過ごせる場所



居場所ができた



表情が  
明るくなった

子どもの育てにくさについて  
相談できる場所ができた  
(保護者)



先輩にインタビュー！

## 事情をわかってくれる人がいる安心感と いつでも相談できる雰囲気が 僕の大きな支えになりました

うちだ けい  
内田 恵 さん

さいたまユース学習支援教室卒業生  
その後、学習支援スタッフを経験し、現在は県内企業で活躍中



小学校4年生の1年間、僕は学校に通っていませんでした。父親から母親へのDVがあり、母と二人で母の実家に夜の間に逃げました。その後も、実家からDVシェルターに入り、1年後にようやくさいたま市内の小学校に転校することができたんです。そこからはずっと母と僕との二人暮らしでした。

母は精神障害があり、働くことができなかったため、生活保護を受けて暮らしていました。学校での勉強についていけないわけではなかったけど、同級生のほとんどが塾に通う中、僕は塾には通えません。

中学3年生の夏、受験が心配になった頃に、さいたま市から生活保護世帯に無料の学習支援教室があるというお知らせをいただき、岩槻区の学習支援教室に通い始めました。

### 生活保護世帯でも無料で学習ができる 学習支援教室は大切な居場所だった

学習支援教室はいつも楽しい雰囲気でした。勉強している子もいればおしゃべりにきてる子もいました。僕は、そこが塾だと思っていたのと、ちゃんと受験をしたかったので、真面目に勉強しましたね。マンツーマンで大学生のボランティアスタッフがしてくれるんですけど、中学生の僕からすればちょっと年上のお兄さん。話もしやすいし、楽しく勉強できました。

私立には通えないので、受験は県立高校1本です。確実に受かるようにということと、理科の実験が大好きだったので、農業系の高校を受験して合格しました。ただ、高校に入っても母の体調は変わらず、生活も変わりませんでした。高校では農業クラブに所属して、学校も交友関係も楽しかった一方で、母親をなんとなく重荷のように感じていました。

「周りの友達はそのようなことしてないのに自分で晩ご飯つくって、弁当も用意して……。これが普通の家だったら。どうしてこんな家なんだろう」って何度も考えたし、反抗して母と話をしないこともありました。今思えば、

小さい悩みなのですが(笑)。

そんな時も、学習支援教室に行って友達やスタッフとおしゃべりするのはとても楽しかったですね。僕にとっては学習支援教室が大切な居場所でした。生活保護を受けていることも、家庭の状況も友だちには話せない。でも、さいたまユースには、そういう事情を全てわかってくれる人がいて、いつでも相談しやすい空気がある。それは本当に大きな安心につながりました。

### 生きづらさを抱える子どもたち その未来をサポートし続けてほしい

高校の途中から、大学でミジンコの研究をしたいと思うようになりました。成績は良かったので推薦も受けられる状況でしたが、学費は払えないので奨学金を使うしかないと考えていました。奨学金の書類も自分で用意しなければならなかったのですが、スタッフがサポートしてくれてとても助かりました。

大学入学後は、僕自身もボランティアスタッフとなり、高校まで通い続けた学習支援教室に宇都宮から週2回通っていました。子どもたちの中には、抑圧的な環境が家にある子も多いのですが、学習支援教室は、のびのびと過ごせて、自分のままでいられる場所です。僕は、勉強を教えるのは得意ではありませんでしたが、バックグラウンドが近いからこそ気持ちわかります。その頃から、自分の経験を活かして社会貢献をしたいと思うようになり、これまでに行政の研修会や支援団体の講演会などで自分の経験について何度かお話しさせていただいたこともあります。

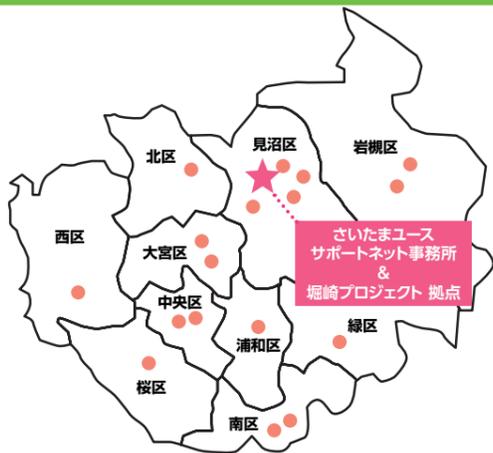
生きづらさを抱える子どもたちに罪はありません。さいたまユースの学習支援教室は、子どもたちが安心して過ごせる居場所です。友達や信頼できる大人と出会い、心配ごとや悩みごと相談しながら、学ぶことができる場所です。これからもぜひ、子どもたちの未来のために変わらずサポートしてほしいと願います。みなさんもぜひ応援してください。

# さいたまユースサポートネット活動実績

人と人のつながりを大切に  
さいたまユースの活動は  
着実に広がっています

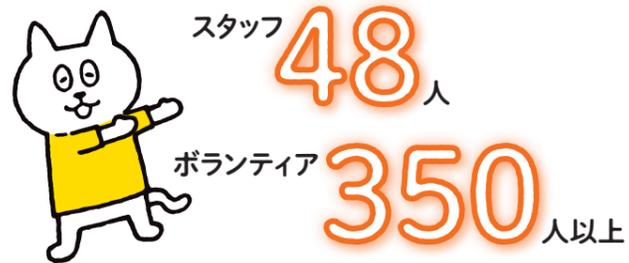
さいたまユースサポートネットのすべての活動は、人と人のリアルなつながりや関係性を大切にしながら、子どもや若者たちを支えていることが大きな特徴です。地域の人たちにあたたかく見守られながら、地域で育ち、地域で遊び、地域で学び、地域で働く——。地域の人たちもまた、大学生から高齢者まで幅広い年代の人たちもボランティアとしていきいきと参加し、子どもや若者たちから力ももらっています。このような、地域に根ざした活動がしっかりと根を張り、年々広がってきました。

## さいたま市内10区で学習支援を受託!



当初は有志で場所を借りてスタートした学習支援。現在はさいたま市の委託事業として、さいたま市内10区すべてで実施するようになりました。2012年は5つだった学習支援教室は、2024年には23教室に。対象も中・高校生だけでなく、小学生にも広がっています。

## スタッフ、ボランティアも増えています!



スタート当初は全て市民や学生によるボランティアで活動していましたが、今では48人のスタッフ(2024年度現在)に加え、ボランティアは年間350人以上。スタッフの多くは、専門的な知識や経験を持ち合わせています。臨床心理士(公認心理師)、社会福祉士、キャリアコンサルタント、教員(通常級・特別支援学級・小中高大)、保育士に加え、英語、中国語が堪能なスタッフも。

## サポートしている子ども・若者の人数は?



学習支援教室のほかにも、居場所づくりや就労支援などさまざまな活動をおこなっています。すべての事業を合わせると、年間1500人以上の子ども・若者をサポートしていることとなります(2024年度現在)。

## 年間の就労支援相談実績は?



第1回・第2回「働く力応援基金」(公益財団法人パブリックリソース財団)の助成団体に採択された就労支援では、2021年度から2022年度9月末までに454件の若者の相談に応じています。2021年度は、のべ277人の個別相談のほか、45回のプログラムを実施し、地域の職業人講話や少人数制の就労プログラム、さまざまな体験活動を通して、伴走型で就労につなげてきました。

## さいたま市、上尾市、埼玉県、厚生労働省、文部科学省などの委託・助成事業も多数!

さいたま市や近隣自治体からの委託事業だけでなく、厚生労働省の助成事業、調査研究事業などにも積極的に取り組んできました。

### ■ 2024年度の助成事業実績

- 2023年度(緊急枠) 休眠預金活用事業『『本のある居場所』がたつなく地域と孤立するひとり親家庭～『本のある居場所』づくりを通して、社会から一人も取り残さないローカル・commonsの形成～』
- 2024年度 赤い羽根福祉基金(中央共同募金会)「ヤングケアラーの子ども・若者を地域で発見し、支えるためのネットワークづくり事業」
- 令和6年度 社会福祉振興助成事業(WAM 通常助成事業)「就労・社会参加に困難を抱える若者を包摂する地域協働事業」

# 「認定 NPO 法人」 認定により税制優遇が可能に

2024年3月1日、さいたま市で認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として認定を受けました。認定を受けられるのは、全国に約5万あるNPO法人のうち3%に満たない1260団体(2025年1月31日現在)にとどまります。活動の公益性、事業の非営利性、運営の透明性などの厳しい審査基準が定められ、これらをクリアできる団体は限られているためです。

また、認定取得により「寄付者への税制優遇」が可能になりました。個人の方は、ふるさと納税と同様に寄付金控除の対象となり、確定申告で所得税控除・住民税控除が可能です。法人の方は、一般損金算入限度額に加えて特別損金算入限度額の枠も活用できるようになります。

2011年の法人設立以来、地域の多くの方々とともに子ども・若者たちを支える活動をして参りましたが、この度、認定NPO法人として新たな節目を迎えることとなりました。団体の取り組みを更に多くの方々へ届け、子ども・若者たちが地域社会の一員として活躍していけるよう、活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

専務理事 青砥祥子



# 貧困・孤立した子どもたちの活動にご支援を

地域の中には、家庭や学校で十分な社会体験ができない子どもや若者たちが多くいます。さまざまな体験を積み重ね、社会とつながっていけるよう、子どもたちの季節のイベントやスポーツや音楽などの芸術体験、地域とつながるイベント開催をしています。こうした取り組みを今後も継続していくため、ぜひご支援をお願いいたします。

## 「はたらく」体験へのご支援

さまざまな課題を抱えながらも公的支援を受けられない若者たちの「はたらく」体験へのご支援をお願いいたします。

過去の不登校やひきこもり経験のほか、発達障害、精神疾患、メンタル不調等に悩む若者など、一般就労では社会に踏み出すことが難しく、生きづらさを抱え、働くことが困難な若者たちに対し、各種相談、グループでのワークショップ、農業体験、パソコンスキルプログラム、面接練習、職業体験会、



会社見学、面接の練習など、自立への支援をおこなっています(P7参照)。

自治会の協力を得て地域清掃に取り組んだり、就農体験で野菜づくりをしてマルシェで販売したり、コーヒーのラベルのデザインをしたり、できることからチャレンジするプログラムを実施しています。

「社会で働きたい」と思いながらも踏み出せずにいる若者のために、段階的に収入を得ながらステップアップしていけるよう、「はたらく」体験の場をこれからも提供し続けたいと考えています。

## 体験活動・子ども食堂へのご支援

さまざまな要因で文化体験が乏しい子ども・若者たちの体験活動、長期休暇中の遠足やキャンプなど、子どもたちの社会体験や人間関係を広げ、豊かな思い出をつくるための活動へのご支援をお願いいたします。

堀崎プロジェクト(P16～P17)でご紹介した「ほりさきたまり場」での音楽、ダンス、空手、演劇などの文化体験プログラムの開催は、補助金やみなさまの寄付により継続することができています。また、カフェスペースで開催している子ども食堂「ほりさき commons キッチン」(P19)、フードパントリー(P19)の食材なども、さまざまな企業のみなさまからご提供いただき心より感謝しています。

今後も、子ども・若者たちの体験活動や、子ども食堂やフードパントリーを継続していけるよう、みなさまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

# あなたのご支援でできることが たくさんあります

さいたまユースサポートネットは、  
将来の夢を描けずに苦しむ  
多くの子ども・若者たちの応援をしてきました。  
子どもや若者の不安や孤独感を解消するためには、  
「地域の中に自分を認め、  
受け止めてくれる居場所がある」という  
安心感が何よりも必要です。  
そのために、地域社会が協働するモデル  
「コモンズ」を  
さらに広げていきたいと考えています。  
私たちの活動はまだまだ発展途上にあります。  
ぜひ、みなさまのお力をお貸しください。

## 1 参加する

カフェの利用、マルシェやイベントなどに参加

## 2 ボランティア

単発でも定期的でも。得意なことを生かして

## 3 就労先紹介

アルバイト・正社員——。若者たちに仕事を

## 4 寄付する

マンスリーサポーター、スポットサポーター、物品によるご寄付、遺贈によるご寄付も



認定NPO法人だから  
寄付金控除の  
対象になるよ!

月 **1,000円** で

- ・食事を子ども3人に1日提供できます。
- ・子どもに勉強を教えることができます。

月 **3,000円** で

- ・食事を子ども3人に3日間提供できます。
- ・子ども一人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月 **5,000円** で

- ・食事を子ども3人に5日間提供できます。
- ・絵具、書道セットなどを提供できます。

## 寄付の方法

詳細はこちらから



## マンスリーサポーター

月額(5段階の料金)でのご寄付。お支払いはクレジットカードによる自動引き落としで対応しています。

## スポットサポーター

クレジット払い・銀行振込・郵便振替・現金書留にて、ご都合のよいタイミングでできる任意の金額のご寄付です。

## 物品によるご寄付

郵送(元払いのみ)か持ち込みでのご寄付です。長期保存できる米や食料、不要になったテレフォンカード等をお送りください。

## 遺贈によるご寄付

遺言から所有されている財産の一部のご寄付も可能です。困窮する子どもたちのためにご寄付いただける方もお待ちしております。

**振込先** クレジットカード決済以外の場合は下記までお願いします。

銀行振込	郵便振替	現金書留
金融機関名 埼玉りそな銀行 与野支店	記号・番号 00110-1-504848	〒337-0052 埼玉県さいたま市見沼区 堀崎町12-39
種類・番号 普通預金・4551248	口座名 特定非営利活動法人 さいたまユースサポートネット	NPO法人 さいたまユースサポートネット
口座カナ名 トクヒ) サイタマユースサポートネット		
口座名義 特非) さいたまユースサポートネット		

## ご支援いただいた企業・団体(順不同)

### 浦和北ロータリークラブ

私たち浦和北ロータリークラブが、さいたまユースサポートネットとおつき合いを始めたのは10年ぐらいい前になります。見沼田んぼの荒地化対策として農園を運営していた見沼福祉農園の事業で、土地の耕し・植え付け・収穫をおこない、共に汗を流しました。それをきっかけに、さいたまユースが主催している若者自立支援事業に参画、定時制高校の職業相談や職場体験等、数年に渡り協働の関係を続けてまいりました。その後、見沼区堀崎町に移転してからの活動では、出会いの場であるコモンズカフェの運営、マルシェの開催、演奏会やイベントを通じて、地域の交流にも力を入れてきました。また子どもたちの居場所づくり、若者支援

事業、生活困窮者等の自立支援や学習支援、最近では子ども食堂も開催し、行政の手の届かない、子どもたちの居場所づくりや誰もが『ここにいいんだ』と参加者の一人ひとりが対等な立場で活動できている、コミュニティーづくりなど地域で家庭環境の問題や貧困の格差により若者が孤立しないように『たまり場』という居場所をつくることも進めています。ロータリークラブは地域社会貢献や青少年育成に力を入れている団体で、まさにさいたまユースがおこなっている行動とも共通しています。浦和北ロータリークラブは、今後もさいたまユースの活動に対し積極的に参加し、引き続き応援していきたいと考えています。



### ジョーンズ ラング ラサール株式会社

総務部長 中山 幹朗 様

非営利団体の活動を支援するFITチャリティランを通じて、長年教育に携わり、困難を抱える子どもたちを温かい目で見守る青砥先生やスタッフの方々と出会い、その献身的な取り組みに感銘を受けました。弊社では、青砥先生に

よる日本の子どもの貧困に関するオンラインセミナーを始め、弊社での就労体験も実施させていただきましたが、今後も子どもたちにとってよりよい環境、社会をつくるために継続的に活動をご一緒してまいりたいと思います。



### 浦和レッドダイヤモンド



「サッカーをはじめとするスポーツの感動や喜びを伝え、スポーツが日常にある文化を育み、次世代に向けて豊かな地域・社会を創っていきます」という浦和レッズの宣言のもと、スポーツを通じて地域が幸せになるような取り組みを、プロサッカーチームとしての活動だけでなく、続けていきます。放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所として、さいたまユースサポートネットが運

営する「子ども第三の居場所」を通じて、一人でも多くの子どもたちが夢を持ち、夢に向かって頑張ることができるよう、2021年から連携させていただき、サッカーを中心に子どもたちが元気に過ごし、そして生き抜いていく力を持てるようサポートしてまいります。「第三の居場所」にかぎらず、さいたまユースサポートネットの活動の輪が広がりますことを願っております。

